

4月の神幸祭に向け本格始動

大名行列を披露する羽計区が合同練習



▲江戸時代を再現する芸能の練習。夜間、橘小学校体育館で行われる

900年の歴史を誇り、20年に一度行われる東大社式年大神幸祭。今年はこの神幸祭が4月10日(土)から12日(月)にかけて行われます。東庄町からは青馬・宮本の神輿使者に加え、羽計、石出、東今泉、今郡、栗野・八重穂区が参加し、東大社から銚子市の間にはけられた15の関所で下座や手踊りなどの芸能を披露します。数万人の人手となる神幸祭での芸能披露に向けて、各区の出演者はすでに練習を始めています。数々の妙技が組み込まれた大名行列を行う羽計区は、1月7日(木)に橘小学校体育館で本格的な合同練習を始めました。前回、前々回の神幸祭で演技した「師匠」の厳しい目が光るなか、約2時間に渡り辛い姿勢の動作を繰り返し練習していました。各区の稽古は本番まで続きます。



さまざまな年代の子ども達が利用する町児童館。天気の良い日は、子ども達がグラウンドを駆け回ったり、遊具で遊んだりしています。中でも人気なのはブランコです。しかし、勢いよくこいで遊ぶ小学生に幼児が近づいて、ヒヤリとする場面が見受けられました。そこで町は、昨年12月、ブランコの周りに柵を設置しました。杉の木とロープを使った柵は、健康福祉課職員の手づくり。作成にあたり木の提供を町森林組合に相談したところ、飯田文男さん(平台)が快く杉の木を無償で提供してくれました。また柵は、東庄県民の森の職員の皆さんからアドバイスをいただき、道具をお借りして作りました。自然に調和した木のぬくもりを感じられる柵が、地域の皆さんの好意と協力で経費をかけずに完成しました。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。



▲木柵は、2つあるブランコの周りにコの字形に設置。幼児の保護者からの評判も良い

手づくりのぬくもりが子どもを守る
地域の協力で児童館ブランコ周囲に柵を設置
飯田文男さん(平台)が杉の木を提供



▲鬼ごっこやボール遊び後のミニゲームでは見事なシュートも見られた

ボールと遊ぶ楽しさ実感

鹿島アントラーズサッカー教室

ボールに触れる機会を作り、体を動かす楽しさやサッカーのおもしろさを知ってもらおうと、12月16日(水)に鹿島アントラーズのコーチが橘幼稚園を訪れ、サッカー教室を開催しました。橘、石出、東城幼稚園の3園から30人の幼児が集まり、遊びながらボールに触れたり、試合をしてサッカーに親しみました。コーチの大川和幸さんは「元気で素直な子ばかりだったので、やっている自分達も楽しかった。定期的に関催できれば」と今後の開催にも意欲を見せていました。

91チームが熱戦

第18回水郷杯香取郡市旗争奪少年野球大会

香取・海匠地域および印旛地域等の91チーム1,800人が参加して行われた少年野球の大会は、12月6日(日)から20日(日)にかけて16の会場で開催されました。6日は、多くの保護者が見守る中、主会場となった宮野台運動公園で開会式が盛大に開かれました。開会式では、参加した女子選手70人に記念品がプレゼントされました。20日に行われた決勝戦では、延長9回サヨナラで並木ペイシェンス(成田市)が野栄スポーツ少年団(匝瑳市)を敗って昨年に続いて優勝し、熱戦に幕を降ろしました。



▲選手宣誓する東庄スポーツ少年団ホークス主将の高橋稯さん(小座)



▲使い慣れない包丁で、慎重にそばを切る受講者

こだわりの味を家庭で

そば打ち講習会

本格的なそば打ちを体験する講習会が、12月20日(日)ふれあいセンターで開かれました。講師は、指導のうまさ定評があるそば打ち名人の中嶋仁さんと初山富永さん(香取市)。参加した17人は、専用の道具を使って、そば粉と小麦粉と水を混ぜ、こね、のし、切り、茹での全工程に挑戦しました。つゆにもこだわり、手打ちそばは、冬の味覚「カモ」を使った特製の鴨せいろになりました。参加者は手間をかけて作ったそばを、満足そうに味わっていました。